

自分に勝つ剣道をしたい

東京都

東京樺剣士会

中学2年 人 長 風 緋

「負けることでたくさんの方が学べる。」剣道の先生に言われた言葉を思い出す。

私には、なかなか治らない癖がある。

それは、右手で竹刀を振ってしまい、首もまがってしまうところ。右手が強いと、相面で負けてしまったり、次に打ちたい技が打ちにくくなってしまう。この課題を解決しないと、強くはなれないのだ。

私は、小学三年生の頃に担任の先生からすすめられて剣道を始めた。その先生は、全国大会で優勝したことのあるすごい先生だ。話を聞いて、興味を持ったのがきっかけだ。今思えば、この先生と出会わなければ、剣道を始めていなかったのだろうと思う。

さて、あなたは稽古を辛いと思ったことがあるだろうか。

厳しい稽古はとてもきつい。でもそれは、自分にとって良い刺激になる。「嫌な稽古」と思うのではなく、「自分のためになる稽古」と思ってこれからも頑張っていきたい。

私にはもう一つ、頑張らなければいけないスポーツがある。それは、部活動の陸上競技だ。部活動をやりながら剣道と両立するのはとても難しい。部活動へ行ったら後に、剣道へ行くことだってよくある。それでも、頑張りながら上手く上達していきたい。

試合になると緊張して固まってしまう、実力を発揮できない時がある。これも、私の中の一つの課題である。練習のときには出せていたはずの技が出せなかったことがあった。とても悔しくて、とても落ち込んだ。

そんな時に届いた剣道の先生からの手紙に、私は救われた。

「強い者には必ず悔しくて涙が止まらない負けの経験があります。プレッシャー、負けたくない思い、期待や不安、その日の調子など。強くなればなる程、迷いは増えます。最後には自分との戦いです。

『負けたことがある。は最大の武器である。』

この悔しさを大切にしてください。負けたものの辛さ、悲しみを知ることで、人に優しくなれます。」

と。そこで私は感じた。ただ「勝つ」だけでは、剣道の本当の意味を知ることはできない。

「負けること」を味わい、それを自分で改善しようとするから、本当の自分の剣道をすることができるのだと。

正直、私は、心が小さくて、自信のない人間だと思う。でも、前向きに考えてみると、まだまだ成長できる人間なのだと思う。

剣道が自分に合っていないのではないかと思うこともあった。今でも少し思うことがある。だからといって、どんなに調子が悪くても、どんなに気分が乗らなくても、これを言い訳にして、手をぬいて良いわけではない。その嫌な調子や嫌な気分を吹っ飛ばせるくらい強い気持ちを自分で作っていきたい。

悔しすぎて、涙が止まらない、苦しいと思うことだってある。時には、人間関係がうまくいかなくて、心が折れそうになったこともあった。でも、色々な人に支えてもらいながら今までを歩んでこれた。

完璧に全てをこなせる人間などいない。努力をしているから結果を残すことができるのだ。

「剣道は年をとってもやっていけるもの。」きっと剣道は私の中で「宝物」だ。剣道に出会わなければ、心が折れるほど悔しい思いも、忘れたくないと思えるほど大切なことも、こんなにたくさんは知ることができなかった。そして、こんなに素敵な仲間にも出会うことは出来なかつただろう。

自分に勝つ。これは私の新しい目標。今の自分よりも強く、心優しい剣士に。そして、「自分に勝てる剣道」ができるように、これからも努力していきたい。